

## 静岡県漁業協同組合連合会

1035 静岡市追手町 9-18

15.3.20 ☎ 054-254-6011

編集・発行 = 指導部漁政課

### 1. 県議会議員選挙に伴う水産議員候補者の推薦について

県水産振興推進協議会(原剛三会長)では、去る2月24日委員会を開催し4月の統一地方選挙(4月3日告示、13日投票)における県議会議員候補者の推薦について協議した結果、日頃本県水産業の振興に理解のある立候補予定者16名の方々を推薦候補として支援することに決定いたしました。なお、協議会ではこの決定を受けて会長を中心に地元漁協代表者と共に各候補者に推薦状を手渡し選挙に向けて激励しました。

議員名	選挙区	推薦地区	議員名	選挙区	推薦地区
佃 弘己(自・現)	伊東市	伊東	天野 一(自・現)	静岡市	清水
森 竹治郎(自・現)	下田市・賀茂郡	賀茂	藪内 重樹(無・新)	焼津市	焼津
石橋 康弘(自・現)	田方郡	沼津	曾根恵津広(自・現)	藤枝市・志太郡	"
多家 一彦(自・現)	沼津市	"	西原 茂樹(自・現)	榛原郡	榛原
遠藤 榮(自・現)	富士市	"	大橋 正己(自・現)	磐田郡南部	西部
中澤 通訓(自・現)	清水市	清水	浜井 卓男(自・現)	浜松市	"
前沢 侑(自・現)	"	"	佐原 徹朗(自・現)	湖西市	"
佐野 康輔(自・現)	静岡市	"	田中 泰之(平・現)	浜名郡	"

\* (自)は自民党 (平)は県議会党派平成21

### 2. 第46回県漁協婦人部大会開催

- 県漁婦連 -

県漁協婦人部連合会(種石幸枝会長)では、去る3月14日県女性総合センターにおいて、県下漁協婦人部員等約250名の参加のもと、第46回県漁協婦人部大会を開催しました。

この大会は、県下漁協婦人部員が一堂に会し、婦人部組織の今後の進め方について研さんし、もって明るく豊かな漁村づくりを目指すため毎年開催しているものです。

当日は種石会長の挨拶に続いて、来賓として県水産振興室村松室長(田中主幹代読)、本会原会長、信漁連山本副会長より夫々祝辞が述べられ、続いて県栄養士会山下陽子会長より「あなたの健康度は? ~ 食育の必要性 ~ 」と題した食の安全性を絡め、大変ユーモアにあふれた記念講演が行われた後、安全・安心な水産物の消費拡大を推進することを誓う旨の大会宣言が述べられ満場一致で採択されました。

午後からは、先日東京虎ノ門パストラルで開催された第8回全国・青年女性漁業者交流大会で水産庁長官賞を受賞した稲取漁協婦人部の活動発表が行われ、引続き恒例となった婦人部員のアトラクションが披露されて、楽しい一時を過ごすとともに部員相互の親睦を深

めました。

### 3. 平成14年度県立漁業高等学園卒業式を挙行 第33期生15名が海の男に

県立漁業高等学園(戸塚宏一園長)では、去る3月13日平成14年度卒業式を挙行し、本県漁業の将来を担う海の若人15名(航海科8名、機関科7名)を漁業の第一線に送り出しました。

式典では、卒業生全員に卒業証書と記念品が授与され、戸塚園長の式辞に続いて、来賓として県議会議員清水泰氏、学園後援会副会長西川兼次氏が夫々祝辞を述べるとともに、卒業生を代表して航海科・石川雄基君が「皆様の期待に応えられる漁業後継者となります」と力強く答辞を述べ閉会となりました。

なお、卒業生は既に次のとおり14名が各々県内漁船への乗船が決定しています。

近海かつお漁業 = 1名 遠洋かつお = 5名 近海まき網漁業 = 2名 さば漁業 = 3名  
定置網漁業 = 1名 シラス漁業 = 1名 刺網漁業 = 1名

### 4. かつおの水揚が好調

漁業情報サービスセンターがまとめた太平洋のカツオ一本釣漁業の水揚量が昨年比6割増の2,053トンで、過去5年間で最も多い水揚量と発表しました。

同センターの調べによると、1月の水揚量は勝浦で36トン(昨年は水揚なし)、御前崎では昨年比4倍の200トンで、2月も昨年比3割増の825トンと1日で40~70トンの水揚量がありました。また、沼津では2月水揚量が347トン、焼津では2月水揚量が83トンと発表されています。

### 5. 第28回全国かん水養殖シンポジウム開催

全国かん水養殖協会では、去る2月6日第28回全国かん水養殖シンポジウムを宮崎市内で開催しました。

冒頭岩切会長より「生産過剰と輸入魚の増大による魚価低迷、トレーサビリティ問題など当面する課題を克服するには、生産者自ら何をすべきかを真剣に考える必要がある」と、挨拶されました。今回のシンポジウムでは「養殖魚と養殖業界、今何をすべきか」をテーマに養殖魚の安全・安心に対する取組みや、消費者に信頼される養殖業の構築を議論しました。

また、基調講演では水産庁増殖推進弓削部長が「安全・安心、安価、安定をキーワードに、種苗段階から出荷まで全行程をコントロールでき、需要に沿った商品づくりができる点が養殖魚のメリットとし、消費者の安全志向が高い今こそ養殖魚を売り込む機会」と述べました。引続き、参加者たちは プリ類の経営安定策を探る マダイの経営安定策を探る 安心を売るために・養殖履歴 の三つの分科会に分かれ今後の取組み等を討議しました。

諸会議・日程(3月25日(火)~4月7日(月))

- 既存分省略 -

3月25(火)~26日(水) 県漁連 = 第80回新職員研修会 (県産業経済会館・県水産会館)